



# 校長通信

令和4年度32号 令和5年3月14日

和歌山市立河北中学校 校長 戸川定昭

## 《令和4年度第76回卒業証書授与式を開催》

去る3月8日、好天に恵まれた温かい春の日差しの下、卒業式を行いました。開式前、卒業生は、会場内の温かい拍手に迎えられ、やや緊張した面持ちでしたが、時々、うれしそうな表情を見せながら、入場して来ました。



在校生代表の送辞では、卒業生が最高学年として、生徒会活動や学校行事で中心になって取り組んだ姿から、在校生が、大いに刺激を受けたこと。これから、それを引き継いで、河北中学校を更に活気あふれる学校にしていきたいと決意が述べられました。

卒業生代表の答辞では、コロナの制約の中から、自分たちができることを考え、全力を尽くしてきたこと、また、そのことを誇りに思っていることなど、立派に述べてくれました。本当に、すばらしい、送辞、答辞でした。また、更にうれしかったことは、送辞にも、答辞にも、私が日頃から、子供たちに話している、一つの動作を終えても、気をぬかず、振り返る「残心」という言葉を引用してくれていたことです。

卒業生は、新たな進路先で、在校生は、進級した学年で、身体を大切にして、元気に様々なことに挑戦して行ってほしいと思います。

## 《師弟同行！》

先日、ある剣道の稽古会で、久しぶりに、私が中学生だった頃の剣道部顧問の先生に稽古をつけていただきました。私が、中学校に入学した時、先生は、大学を出て2年目の若くて、熱心な先生で、時には厳しく、時には優しく、剣道の指導をしていただきました。



先生は、私より11歳年上なので、現在、69歳ですが、衰え知らずで、ガンガン攻めてきます。最後、私が面を一本決めて稽古は終わりました（打たせてくれたのだと思いますが・・・）。師匠の元気な姿に刺激をもらいながら、私も70歳ちかくになっても、剣道の稽古を続けていられるよう健康に留意して、精進していこうと心に誓ったところです。